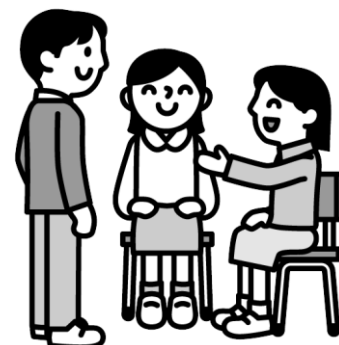


『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

1 各種調査により児童生徒の実態を把握する

- ・学習，生活アンケート
- ・Q-U
- ・チェックリスト
- ・メンタルヘルスアンケート
- ・教師の日常観察
- 他



2 児童生徒と向き合う時間を設定し，一人一人を理解する

【こんな時に，こんな方法で】

- (1) 日常的に・・・子供からの発信を受け止める。
 - ・朝・帰りの会，休み時間，昼，そうじ，給食，部活動
 - ・日記，ノート等の書いたものから思いをとらえる。
 - ・授業（発言，ノート）から考えを知る。
 - ・課題や取組への点検・評価
- (2) 意図的に・・・教師側から子供への働きかけ
 - ・〇〇タイム（例：縦割りタイム）
 - ・教育相談
 - ・あいさつ運動

3 向き合った時間を生かす

- (1) 一人の子供を多数の目で見守る（気付く）。
 - ・教職員複数の目で見守る
 - ・家庭との連携
 - ・地域との連携
- (2) 期待されるもの
 - ・人間関係，レポートづくり
 - ・学級満足度，安心感
 - ・雰囲気づくり
 - ・子供たちの自己理解のチャンス
 - ・問題の早期発見

4 情報を共有する

- (1) 職員会議・打合せ（主任者会・学年部会，等）
- (2) 生徒理解研修会，等
 - ・各種研修会の実施
- (3) 日常的な児童生徒の情報交換



「声掛けの目的は？」

- ・教師が子供のよさに気付く
→子供が自分のよさに気付く
- ・教師が子供を受け入れる姿勢を持つ
- ・子供が「見守られている」という安心感を持つ

【『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言2 子供をほめること、認めること

1 児童生徒の自己肯定感を高めるために、認め合う場を工夫する

(1) 授業の場面で

- ・児童生徒の実態把握に座席表を活用し、個々への励ましや評価につなげる。
- ・個々の優れた意見を意図的に指名し、全体の場でほめる。
- ・つぶやきや気付きを取り上げ、積極的に称賛し認める。
- ・誤答や稚拙な考えを大切にする。
- ・終末の段階で互いのよさを発表させたり記述させたりする。

(2) 生活場面で

- ・児童生徒間の認め合い（よさの伝え合い、学級・学年組織の中での活動や行事における役割の明確化）
- ・朝の会、帰りの会の活用
- ・互いのよさを認め合う校内放送・壁面掲示

2 児童生徒の学級づくり仲間づくり

- (1) 児童生徒が活躍できる場を設定し、そのプロセスを認め賞賛する。
- (2) 朝の会・帰りの会・集会活動・学級活動等の場面で、クラスメートの頑張りや活躍を紹介したり認め合ったりする。
- (3) SGE・ソーシャルスキルトレーニングを活用し、児童生徒が相互に関わり合い認め合う態度を育成する。



3 組織的な取組

- (1) 教師間の積極的な情報の共有を行う。
- (2) 互いのよさを認め合う、校内放送・壁面掲示をする。
- (3) 一人一人の児童生徒に対する賞賛の記録の蓄積をする。(全職員)

4 家庭との連携、発信

- (1) 懇談会等で児童生徒の頑張りを紹介し、家庭でも児童生徒を認め、励ます。
- (2) 児童生徒の活動成果を、学年だより、学級だより等で積極的に発信する。

【『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

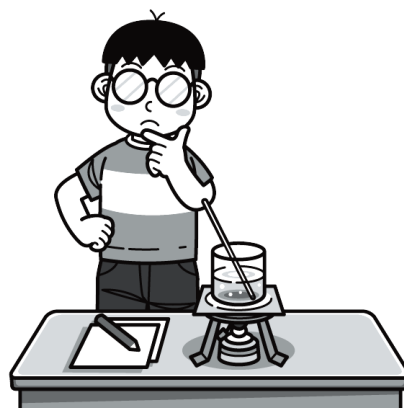
※ 系統性を踏まえた教材研究を行う。

1 単位時間のねらいを明確にする

- (1) 児童生徒の実態を把握する。
 - ・レディネステストや意識調査をすることにより、児童生徒の学力や学習状況を細かく把握し、ねらいに到達するための手立てに生かす。
- (2) 見通しを持たせる。
 - ・単元の見通し→学習計画表を掲示する。
 - ・単位時間の見通し→1時間の流れをワークシートやホワイトボードで提示する。
 - ・課題解決の見通し→思考の流れに沿う発問を吟味する、授業の基本形を作成する。

2 児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- (1) 驚きや発見のある問題提示の仕方の工夫
- (2) 学習のゴール（目的）と道のり（方法）の共有
- (3) 既習事項とのつながりを意識すること



3 ねらいと振り返りを直結させる学習過程の工夫

- (1) 教科毎の授業のスタンダードの確立と共有化
- (2) 単元構想と評価規準の明確化

4 適用問題に取り組ませる

- (1) 個に応じた適用問題に取り組ませる。
- (2) 理解度を確認するとともに、評価や補充・発展に生かす。

5 分かった・できたを実感させる振り返りの設定

- (1) 学習感想を書く際の観点を明示する。
 - ・ねらいに沿った観点を示す。
 - ・ポイント（キーワード）を提示する。
- (2) 発達段階に応じた書かせ方の工夫をする。
- (3) 学習感想を授業の評価や児童生徒の振り返り・意欲付けに生かす。



『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

1 自分の考えを持たせるために、書く活動を充実させる授業の工夫

- (1) 授業の中で書く時間を確保する。
 - ・指導過程を見直し、自分の考えをまとめる時間や振り返る時間を位置付ける。
- (2) 多様な表現活動を取り入れ、書く力を育てる。
 - ・既習事項の活用 ・文例を提示するなど児童生徒にヒントを与える。(モデルの提示)
- (3) 考えを深めるための授業づくり
 - ・段階を踏まえた書く活動 ・思考を促す発問の工夫
- (4) 考えを記述するための教具の工夫
 - ・発表用ボード、付箋紙等の活用 ・ICT機器の活用



2 思考力や表現力を育むための指導の工夫

- (1) 書かせるための工夫
 - ・ヒントカードやキーワードを提示 ・メモをとらせる工夫
- (2) 記述内容をよりよくするための工夫
 - ・友達の考えを赤ペンで書き込む ・自分の考えの変容を見るための書き方指導
 - ・根拠を明確にして自分の言葉で書かせるための指導 ・考えを記述することの習慣化
- (3) ねらいに合わせた学習形態を取り入れる。
 - ・小集団による学び合い、練り合いの時間を確保し、多様な考えに触れるようにする。
- (4) 自分の考えと他の考えを比較する場面を設定する。
 - ・付箋紙や色ペン、メモを活用しながら学びを深めることができるようにする。

3 授業における板書・ノートづくり

- (1) 板書の工夫
 - ・学習の振り返りができるようなノートづくりをさせる。
 - ・板書の構造化(ノートを意識した板書、学校全体で統一した板書のパターン)
- (2) ノート指導の工夫
 - ・学年はじめ又は学校で統一したノートづくりのルールを確認する。(色ペンの活用等)
 - ・授業の流れが分かるノートの書き方の指導 ・板書と同じ速さでノートを書かせる。

4 系統的かつ横断的に指導するための環境を整える

- (1) 学年ごとに付けたい力を明確にし、書くことに関する重点項目を設定する。
- (2) 書く力を他教科、他領域で活用できる場面を設定する。



『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言5 家庭学習の時間を確保すること

1 学校・児童生徒の実態に応じた、家庭学習の内容の質の向上

- (1) 「家庭学習の手引き」を作成する。
 - ・学習習慣の定着を図る（例⇒小学校：学年×10分，中学校：学年×1時間，等）
 - ・環境について（ながら勉強はしない，決まった時間の集中，等）
 - ・家庭学習のねらいや効果について
 - ・定着のための復習の仕方
 - ・授業に結びつく予習の仕方
 - ・学年ごとの学習例について（自学ノートの展示，等）
 - ・平日と休日の取組の違い，等
- (2) 教科の特性や習熟度に応じた学習内容での取組
 - ・教科の特性や習熟度別に効果的な学習方法を掲示したり，課題を提示したりする。
 - ・自己評価によって，プリント等を選択させる。
- (3) 家庭学習を振り返る場の設定
 - ・友達間での評価（自学ノートを見せ合う，等）
 - ・教師側からの助言（コメントの活用）



2 家庭学習カードを活用する

- (1) カードの内容の工夫
 - ・めあて，計画，実施，振り返りを記入できるようにする。
 - ・学習時間，生活リズムを記入できるようにする。
- (2) 意欲を持続させる工夫
 - ・計画を立てる時間を確保する。
 - ・週ごと，月ごとなど，適時，取組の様子を把握する。
 - ・保護者から励ましの言葉をもらう。
 - ・担任からの評価，励ましを記入する。

3 保護者への啓発を工夫する

- (1) 学校から家庭へ配布するお便りを利用して，家庭学習の大切さを伝える。
 - ・学校日より，学年日より，学級日より，研究日より
- (2) 学級懇談や教育相談などの機会を活用して家庭に協力を呼びかける。
 - ・家庭学習のすすめを配布し，学習の方法を紹介する。
 - ・テレビ，DVD，スマホ，携帯，ゲームなどの約束ごとを家庭で話し合う。

4 学習時間を確保するための取組

- (1) 放課後の取組（スクールバス待ちの時間を活用した学習会等含む）
 - ・テスト前の部活動停止期間に学習会を実施する。
 - ・学習場所を提供する。
- (2) 長期休業中の取組
 - ・長期休業中に学習会を実施する。（前半は学習習慣づくり，後半はテスト対策，等）